



各専門部会からの結果報告について

1. コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会(たね地づくり部会)

(1) 本部会の取組概要

■専門部会委員名簿

浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授	
尾崎 清明	(公財)山階鳥類研究所 副所長	
高木 嘉彦	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長	
高見 一利	(公社)日本動物園水族館協会 理事/コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル 副代表/豊橋総合動植物公園 動植物園長	
豊嶋 省二	(公財)東京動物園協会多摩動物公園 副園長	
内藤 和明	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 教授 (併任)兵庫県立コウノトリの郷公園 主任研究員	
日橋 一昭	那須どうぶつ王国・神戸どうぶつ王国 園長	副部会長
長谷川 雅美	東邦大学理学部 名誉教授	
八坂 圭悟 川鍋 政孝	(公財)東京動物園協会多摩動物公園 飼育展示課	オブザーバー

■2025年までに集中的・重点的に推進する『重点プログラム』

A-⑥	関東広域の救護・事故防止対策への効果的な取組みの推進
<ul style="list-style-type: none"> 傷病鳥対応を担う各県の救護関係者等を主な対象とする勉強会等を開催し、救護に係る情報や知識等の共有を図るとともに、事故防止対策に係る協力の呼びかけや関東地域の野外コウノトリの位置情報など、コウノトリの飛来地域と住民との係わりについての様々な関連情報を関係機関等が日常的に共有可能となる取組みを検討する。 コウノトリ救護に係る収容体制や医療施設の確保等の共通課題について、関係専門機関等との連携・協働による継続的・安定的な受入れ方策の構築を検討・実施する。 救護・事故防止対策やその効果等に関する情報の収集・共有を継続的に実施するとともに、東京電力や動物園など関連主体との協力体制の構築・調整の推進など、広域連携による効果的な対策の周知・アピール等も含めた取組みを総合的に推進する。 	
A-⑧	関東地域のコウノトリ・トキの野生復帰とエコネットに関する認識・理解の促進
<ul style="list-style-type: none"> 「おしえてコウノトリBOOK」の内容更新や、コウノトリを活かした地域づくり、野生動物としてのコウノトリとのつきあい方、観察・撮影のためのルール・マナーを周知するリーフレット・展示パネルセットの作成など、啓発ツールの拡充・更新を図るとともに、関係主体間連携による有効活用、県庁・市町役場等の関連公共施設、動物園、大学等における巡回パネル展の開催などを通じ、コウノトリ・トキや流域治水等を含めた関東エコネットの取組みの普及・周知を促進する。 コウノトリ・トキや指標となる生きものをシンボルとした地域づくりシンポジウムや、拠点フィールドの環境管理イベントなどの情報を容易に共有することができる「関東エコネット・メーリングリスト」を立ち上げ、連携・協働する参画主体間におけるコウノトリ・トキやエコネットの各種取組みの情報共有を通じて共通認識・相互理解等の促進を図る。 	

■中期目標実現(2030年)に向けたプログラム

目標実現に向けたプログラム	
関係機関間連携・情報共有の推進	① 飼育および放鳥コウノトリに係る情報の共有等、関東関係機関等連携の推進
	② トキの野生復帰に向けた情報の収集・共有・支援の推進
	③ JAZA、IPPM-OWS等の専門機関、全国のエコネット関連事業地との情報共有・連携の推進
コウノトリの健全な野生復帰の推進	④ 生息域外保全(飼育・増殖事業)の推進・支援
	⑤ 適正な放鳥・繁殖(放鳥拠点・近親婚対応等)の促進・支援
	⑥ 関東広域の救護・事故防止対策への効果的な取組みの推進【重点プログラム】
	⑦ 関東広域等における見守り体制ネットワークの検討・連携
受入れ環境づくりに関する認知・理解の促進	⑧ 関東地域のコウノトリ・トキの野生復帰とエコネットに関する認識・理解の促進【重点プログラム】

1. コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会(たね地づくり部会)

(1) 本部会の取組概要

■取組実績

コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会では、全8プログラムのうち、重点プログラムに位置付けているA⑥とA⑧について検討・実践を進めている。

重点プログラム⑥については、昨年度に野外コウノトリ対応に係る関東版資料集(案)を作成、本年度は、資料集の内容について IPPM-OWSの検討状況との整合や関係機関との確認をとる等して修正・更新を行った。

重点プログラム⑧については、2023年度より関係施設・機関の意見交換の場として「周知PRワーキング(WG)」を開催、施設・機関間連携による周知PRイベントを開催している。本年度もWGを開催しイベントを継続開催するとともに、更に効果的な周知PRのためのツールや方法の検討をWGやメンバーアンケートを通じて進めた。

■会議等の開催状況

	周知PRワーキング	第15回 コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会
実施日時	9月10日(水)午後1時30分～3時	12月19日(金)午後1時～3時
実施方法	オンライン会議	対面+オンライン
内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設機関間連携によるイベント開催について 2026年度以降の進め方について 	重点プログラムの取組と2026年度以降の取組について
メンバー	多摩動物園・上野動物園・井の頭自然文化園・埼玉県こども動物自然公園・野田市・鴻巣市・我孫子市・小山市(WG当日は欠席)、日本獣医生命科学大学博物館・事務局	専門部会委員・行政オブザーバー・事務局
実施状況		

1. コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会(たね地づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告(A-⑥に係る取組)

■実施内容①

「関東地域におけるコウノトリ飛来時対応資料集(案)」の修正・情報更新および関係機関等への確認の実施。



今後の課題

- ・ 県・市町への効果的な周知と活用の推進
- ・ コウノトリに係る新たな対応課題の発生等、必要に応じた情報更新・追加

■実施内容②

関東地域におけるコウノトリの飛来・繁殖等、トキの野生復帰実施状況等の情報収集。

飛来等情報を活用し、関東地域におけるコウノトリ野生復帰同行の把握、広報資料の作成等を行った。



※各年1月～12月の集計。2025年は7月末時点。



本州へのトキの飛来動向 (2008～2024年)



1. コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会(たね地づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告(A-⑧に係る取組)

■実施内容①

周知PRワーキングの開催及び機関間連携によるイベントの実施(次頁表参照)と、次年度以降に向けた進め方の検討



■実施内容②

関東エコ・ネットに係る情報発信・共有の推進



コウノトリ情報のHP発信

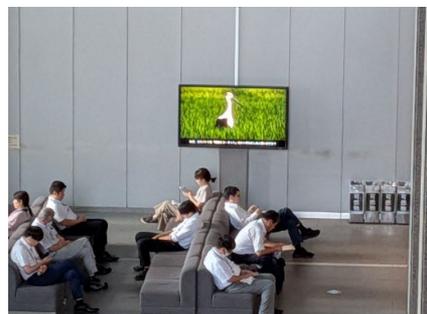


関東エコ・ネットポータルサイトからの情報発信

関東エコ・ネット関係者間の情報共有(メーリングリストによるイベント等情報の発信) 発信回数 10回(8~12月)

「おしえてコウノトリBOOK」の活用

配布部数 3,784部(※11/27時点)
※2024年度配布数:3,155部



関東エコ・ネット紹介動画の活用
@さいたま新都心合同庁舎ロビー、イベント等での放映

＜2025年度＞関係機関・施設によるイベント一覧

開催日・時期	イベント名	主催
2025/5/25	ワタラセコウノトリマルシェ(渡良瀬遊水地コウノトリ交流館)	小山市・民間事業者
7～8月	わたらせコウノトリスクール(出前講座)	小山市
8/17	こうのとりのフェス(こうのとりの里)	野田市
8/18-31	コウノトリビンゴ!(コウノトリ野生復帰センター)	鴻巣市
～11/29	ミニ展示「日獣大アシカ展」	日本獣医生命科学大学附属博物館
8/27-9/2	こうのとりのパネル展(野田市役所ギャラリーコーナー)	野田市
9/12-15、19-21、23	ナイトズー2025	埼玉県こども動物自然公園
9/9-28、10/1～	コウノトリパネル展示、特別展示「コウノトリのつばやき展」	埼玉県環境科学国際センター
9/20	SAITAMA環境フェア&こどもエコフェスティバル	埼玉県みどり自然課
10/2-26	「おしえて!コウノトリ～エコネットと私たちの暮らしの関係って?～」	上野動物園
10/18-19	コウノトリ感謝祭	兵庫県立コウノトリの郷公園 豊岡市
10/26	こうのとりのマルシェ(コウノトリ野生復帰センター)	鴻巣市
11/1-2	JBFでのブース出展(@我孫子市)	関東エコ・ネット推進協議会
11/15-16	コウノトリまつりinズーラシア (IPPM-OWS、鴻巣市、野田市、関東エコ・ネットほか)	IPPM-OWS ズーラシア
12/21	コウノトリを空へ飛ばそう	埼玉県こども動物自然公園
2026/1/23-25	イオンタウンふじみ野での関東エコ・ネットパネル展	イオン(株) 関東エコ・ネット推進協議会
1/29-3/3	パネル展示「おしえて!コウノトリ」、コウノトリキーパーズトーク	多摩動物公園
年度内予定	生きものガイド	井の頭自然文化園

1. コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会(たね地づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告

■会議等の意見

検討テーマ	周知PRワーキング	第14回 コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会
関東広域の救護・事故防止対策への効果的な取組みの推進	-	<ul style="list-style-type: none"> 関東版資料集を使った自治体を対象とした講習会等を開催することは有効な手段であり、自治体からのニーズもある。 関東エコ・ネットや関東自治体フォーラムに入っていない自治体への周知についてもあわせて考えていく必要がある。 コウノトリの個体数増加に伴う課題の整理については、IPPM-OWSと一緒に進める必要がある。
関東地域のコウノトリ・トキの野生復帰とエコネットに関する認識・理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> 動物園の中では認知度が低いコウノトリを取り上げ知って貰う貴重な機会となるため、動物園にとっても連携によるイベントのメリットがある。 卵や巣の模型など、何か実物として共有してもらえるものがあれば、それをリレー方式で巡回してみても貰うと良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「関東エコ・ネット」という言葉ではなく、シンボルであるコウノトリが来る、という状態を目指していることを伝える視点で進めた方が一般市民に効果的。 コウノトリの定着を否定的にとらえる視点についても意識し、それをフォローできるように準備しておくことも必要。 “人も含めたエコネット”という観点で進めていくことが必要。
中間評価について	-	<ul style="list-style-type: none"> コウノトリの野生復帰に関して中国・韓国等との情報交流がもう少しあると良い。 元々コウノトリの渡りは少なかったもので、関東のプロジェクトの目標としては渡りまでは見なくてもよいのではないか。関東個体群ではなく関東で個体がいるようにする、という捉え方で、関東にいかに定着するようにするかを目的とした方が良いのではないか。 できるだけシンボルであるコウノトリが棲める環境を作っていく必要があり、その目指すところを作っていく必要がある。生息地の環境整備に重点を置くのは有効。
2026年度以降の進め方(案)について	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催における連携感が薄いため、「コウノトリ月間」など一定期間の中で各施設でイベントを開催し一元的に発信するなどの工夫が必要。 イベントを定例化することで、担当者としての他部署との調整や準備が進めやすい。 WGのように、イベント開催に係る調整や情報共有の場は必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状とこれからの取組を考えると「野生復帰」ではなく「野生復帰と生息域外保全」とした方が良い。

1. コウノトリ飼育・放鳥条件整備専門部会(たね地づくり部会)

(3) 次年度の検討課題

重点プログラムでの検討・実践をふまえた検討課題、および中間評価から抽出した検討課題をあわせ、2030年に向け、新たな推進体制の下で取組の継続・拡充を図る。

【重点プログラムA-⑥】

コウノトリ関東地域個体群形成に係る

取組支援

- コウノトリ対応に係る関東版資料集の周知・活用の推進が必要
- 関東地域におけるコウノトリの個体数増加に伴う課題対応に係る情報収集や検討が必要

- エリア協議会・関東自治体フォーラム・県等を通じた関東版資料集の共有の推進、資料集を活用した講習会等の開催検討
- コウノトリ地域個体群形成に向けたIPPM-OWS、関東自治体フォーラムとの連携強化(課題等を含む情報共有等)
- コウノトリ個体数増加に伴う新たな課題の整理と支援策の検討

課題

実施内容(案)

【重点プログラムA-⑧】

関東エコ・ネットやコウノトリに関する周知PRの強化

より効果的・集中的な周知PRの推進が必要

- IPPM-OWS主催「コウノトリまつり」への関東エコ・ネットとしての参加(ブース出展)
- 施設間連携し、毎年定例化「コウノトリ月間(仮称)」等のイベント開催の検討
- 情報発信ツール・方法の拡充
 - 関東エコ・ネットポータルサイトの継続運用拡充、関係機関によるリンク発信等アクセス増対策の推進
- 周知PRツールの拡充と活用の推進
 - 「おしえてコウノトリBOOK」等、関東エコ・ネットに係る周知PR、学習等を進めるためのツール(パネル、写真、パンフレット等)の更新・拡充の検討
 - ツール共有サイトの公開などによるツール活用の検討推進

2. コウノトリ生息環境整備・推進専門部会(定着地づくり部会)

(1) 本部会の取組概要

■ 専門部会委員名簿

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 名誉教授	副部会長
浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授	
呉地 正行	日本雁を保護する会 会長	
佐川 志朗	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 教授	
蘇 雲山	(公財)山階鳥類研究所 客員研究員	
出口 智広	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 准教授	
中村 圭吾	国立研究開発法人土木研究所 流域水環境研究グループ グループ長	
長谷川 雅美	東邦大学理学部 名誉教授	部会長
古谷 愛子	特定非営利活動法人オリザネット 事務局長	
森 淳	北里大学獣医学部 教授	

■ 2025年までに集中的・重点的に推進する『重点プログラム』

B-13	エコネットと流域治水の一体的推進による「コウノトリ関東地域個体群」形成への進展
<ul style="list-style-type: none"> 河川を基軸とするエコネット事業は、地域のシンボルや指標となる生きものの保全や再生を目標に、堤外地と堤内地のそれぞれの連携主体が役割分担に応じた生息環境整備に取り組み、地域の活性化や経済振興に役立てるものである。2021年4月に成立した「流域治水関連法」では、防災・減災の地域づくりの観点から堤外地と堤内地のそれぞれについて効果的な取組みを各主体が進めることが定められ、さらに災害リスクの低減に寄与する生態系の機能を積極的に保全又は再生することによって、生態系ネットワークの形成に貢献することが求められている。 上記の背景から、堤外地の河川区域と堤内地の流域の各地区で実施される「流域治水プロジェクト」においては、関東エコネットの広域指標種であるコウノトリ・トキの生息環境整備に資する親和性の高い治水事業の選定を行い、それぞれにふさわしい事業主体(国・県・市町村・民間等)によって、治水と湿地の両機能が一体となる整備計画の検討・実施を推進する。 コウノトリの生息ポテンシャルと流域治水等による堤外・堤内の生息環境整備計画の検討・実施によって、利根川流域等において渡良瀬遊水地が安定したコウノトリ繁殖地になることをはじめ、中・下流域にも繁殖地が広がり、地域個体群形成の見通しが得られることを目標に、生息環境整備を進める。 	

B-14	地域特性と各プログラムの統合化による生息環境整備の計画作成・実施
<ul style="list-style-type: none"> コウノトリ・トキや地域にふさわしい指標種は、地域特性に応じた様々な要因(堤外河川域では年間を通じた水位変動、堤内水田域においては農事歴の違い等)によって、対象種ごとの生息環境整備の諸条件が異なり、広域的なマニュアル作成等による対応だけでは限界が大きい。エコネットを進める流域エリアごとに、地域の自然的・社会的な条件を十分に踏まえた生息環境整備の推進が望まれる。 関東エコネットにおける流域エリアごとの具体的な事業推進では、河川事務所が主となるアクションプラン等とエコネット先行モデル自治体によるコウノトリ関連計画、生物多様性地域戦略策定自治体による各種の取組み等が行われている。これらのことから、地域特性に応じた指標種ごとの生息環境整備の計画的な推進に際しては、これらの関連計画の効果的な整合・調整を図りつつ、地域の独自性を踏まえた計画づくりを行う。 特に、行政界を越えた水系・水域の連続性確保や、B①～⑬に示した生息環境整備プログラムの統合化した取組み実施に留意する。 	

■ 中期目標実現(2030年)に向けたプログラム

生息環境づくりに向けた現状把握と調査・分析評価	① コウノトリ餌生物量調査マニュアル等による調査実施と調査手法の更新・普及、コウノトリ・トキの生息環境ポテンシャル評価の検討
	② 河川整備計画や流域治水プロジェクトに基づく生息環境整備の適地選定と事業推進手法の検討・実施
	③ コウノトリの確認地点情報や生態的特性、生息環境整備の現状・計画等の分析評価に基づく「関東地域個体群形成戦略」の検討
	④ 国・自治体等による指標種の生息環境整備に関する計画や活動の整理と取組成果の検証・評価の推進
河川等の堤外における治水事業と調和した生息環境整備	⑤ 多自然川づくりや自然再生事業、治水工事に伴う湿地整備等のコウノトリやトキ等の生息に資する既存河川事業地の分析・整理の実施
	⑥ 河道掘削や調節池整備等の治水事業と指標種の生息環境整備との一体的推進方策の検討・実施
	⑦ 連携・協働による生息環境整備(保全、再生、創出、管理)推進のための体制拡充
農地等の堤内における生物多様性の豊かな生息環境整備	⑧ 上～下流や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による河川の水系連続性の確保
	⑨ 有機農法や冬期湛水、水田魚道等のコウノトリやトキ等の生息に資する既存農地の分析・整理の実施
	⑩ 指標種をはじめとする生物多様性に富んだ安全・安心な農法・農業の推進
	⑪ 田んぼダム、ため池水位管理等の流域治水プロジェクトにおけるコウノトリ・トキ等の生息に資する生産基盤整備の検討・実施
流域全体の総合的な生息環境整備	⑫ 河川～用水路や水域・湿地間等の魚道整備・改善、水位調節等による農地の水系連続性の確保
	⑬ エコネットと流域治水の一体的推進によるコウノトリ関東地域個体群形成への進展【重点プログラム】
	⑭ 地域特性と各プログラムの統合化による生息環境整備の計画作成・実施【重点プログラム】
コウノトリ・トキに適した営巣環境づくり	⑮ なわばりや地形条件、周辺環境との調和等に留意したコウノトリ人工巣適正配置の検討・支援
	⑯ コウノトリやトキの営巣適木や営巣樹林の育成・保全・管理の検討・支援

2. コウノトリ生息環境整備・推進専門部会(定着地づくり部会)

(1) 本部会の取組概要

■取組実績

コウノトリ生息環境整備・推進専門部会（以降、B部会）では、16プログラムのうち、重点プログラムに位置付けているB⑬とB⑭についての検討を進めている。

昨年度は、河川内を掘削して湿地創出をおこなった先例地として利根川下流の自然再生地の視察と意見交換を行う現地ワーキングを開催した。今年度は、治水事業が予定される流域を対象としたモデル的な生息環境創出・改善の検討を実施するにあたり、複数のエリアで候補地を検討してこのうち利根川・稲戸井調節池周辺において現地ワーキングを開催した。

■開催概要

	現地ワーキング	第15回 コウノトリ生息環境整備・推進専門部会	
開催日時	10月23日(木)午後1時30分～5時	12月18日(木)午前10時～12時	
開催方法	現地視察＋室内会議	対面＋オンライン	
内容	利根川本川の樹木伐採予定地および隣接する稲戸井調節池内の掘削地、利根運河周辺の取組事例地の視察と意見交換	重点プログラムの取組と2026年度以降の取組について	
メンバー	長谷川部会長、青木副部会長、佐川委員、古谷委員、 小山市ゼロカーボン・ネイチャーポジティブ推進課、 野田市自然経済推進部みどりと水のまちづくり課 利根川上流河川事務所流域治水課、江戸川河川事務所流域治水課、 荒川上流河川事務所河川環境課 事務局	専門部会委員 行政オブザーバー 事務局	
開催状況	 <p>視察の様子 (稲戸井調節池)</p>	 <p>視察後の会議の様子 (利根運河出張所会議室)</p>	

2. コウノトリ生息環境整備・推進専門部会(定着地づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告

■ 「利根川・稲戸井調節池周辺地区」を現地ワーキングの視察対象とした選定理由は以下のとおりである。

〈選定理由〉「利根川・稲戸井調節池周辺地区」は、利根川上流管内における河道掘削の下流端に位置し、事業着手が早期に見込まれるほか、隣接する稲戸井調節池の工事が進行中であり、コウノトリの飛来実績もある湿地形成が進んでいることから、連携した取組のモデルとなり得る。



2. コウノトリ生息環境整備・推進専門部会(定着地づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告

■ 会議等の意見

現地ワーキング	第15回 コウノトリ生息環境整備・推進専門部会
<p>＜今後の検討について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「河川整備計画」に示された利根川本川の樹木伐採事業、稲戸井調節池で進めている調節池整備事業、調節池内で「守谷市利活用区域」が予定されているこの場所は、治水・環境と、地域づくりを広域的・一体的に検討する関東エコ・ネットB部会のコンセプトにふさわしい場と思う。 B部会は、流域治水と環境創出で地域を良くすることを検討・支援する場であり、先行事例の視察だけでなく、その実現に向けて、この場を例に具体化に向けた議論が進められれば良い。 稲戸井調節池の中で、守谷市が利活用する将来の占用場所がどのように位置づけられるか、今後の議論のポイントと思った。掘削によって広大な湿地環境が形成されることを受けて、相乗効果が得られる効果的な活用の可能性を、守谷市に何かしらの方法で伝えていければと思った。 今日は、多数のコウノトリを見ることができ、巣塔を設置すれば繁殖の可能性があるとの感想も聞かれ、稲戸井調節池は小山市桜堤と同様、多くの人が集まる賑わいの場になり得ると感じた。 これからの河川整備においては、コウノトリの餌資源である水生動物を増やすことを考えていけると良い。そうすると、おのずと水系のネットワークもできてくる。 樹林伐採も調節池掘削も、今後はいろいろな場面で「維持管理」が重要になると思う。それを最初から想定して、治水も環境も予め計画することが重要。 <p>※上記のほか、利根川本川の樹木伐採や稲戸井調節池における湿地創出等に関する意義や工夫点・留意点等についての意見あり。</p> <p>※事例地として視察した利根運河周辺の取組についての感想意見あり。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 重点プログラムの取組について <ul style="list-style-type: none"> 稲戸井調節池の掘削地において、止水環境となる部分では水質の悪化に注意が必要であり、年に4～5回は水が入るように工夫をすると、さらに良い湿地が形成されると思う。 水域の連続性を確保した時の目標種、例えばキンブナやナマズなどのふさわしい在来の生物を改めて設定して、それ以外では外来種などにも留意し、必要であれば何らかの対策の検討が必要と思う。 稲戸井調節池周辺を例とし、関東エコ・ネット推進協議会として扱う以上は、広域的・継続的に、具体性をもってどう検討を進められるかがとても大事だと思う。 稲戸井調節池内のオオタカの営巣樹林はとても重要な場であり、環境省が示す「猛禽類保護の進め方」に則って調査や対策検討を行い、より良いかたちで整備を進めてもらえればと思う。 利根川本川の樹木伐採に際しては希少種等の生息状況を踏まえて、保全する場所があっても良いかとも思う。また、伐採に伴う新たな湿地環境の創出も検討できればと考える。 農地における多面的機能支払交付金は、まさに関東エコ・ネットに関係する内容を行うことが目的の取組であり、これらが促進される組織づくり・枠組みづくりが課題である。 魚の生息場所とあわせて遡上経路を整理すると良い。一方で、カエル類など関東平野に普通にいる種は、水系などを厳密に考えずに移動分散をさせた方が生態系の基盤を効果的・効率的に再生することにつながると思う。 中間評価について <ul style="list-style-type: none"> コウノトリを「広域指標」としたのが適切であったと思う。生態系ネットワークが広がっていることが、コウノトリを通じて理解可能な状態になっている。 年間を通して関東地方でコウノトリの一年が完結する状況が見られてきている。中間評価では、これらの個体群としての形成状況を加味して、関東エコ・ネットが前進していることを強調し、プラスのイメージで提示いただきたいと思う。 2026年度以降の取組について <ul style="list-style-type: none"> 関東エコLinkという場もあるので、多面的機能支払交付金の先行事例などを共有しながら、横展開ができれば良い。

2. コウノトリ生息環境整備・推進専門部会(定着地づくり部会)

(3) 次年度の検討課題

再編するプログラムの中でこれまで実施した重点プログラムを継続して推進するとともに、2030年までの全体的な取組の進め方の整理と優先取組課題の抽出を進める。

流域治水と一体的な湿地環境整備の推進

課題

各エリアの取組推進に寄与するために提示するモデルプランを作成するためには、整備イメージの作成が必要

実施内容(案)

- 利根川・稲戸井調節池周辺を対象として、①河道内の樹木伐採と合わせた環境創出と②稲戸井調節池等における湿地創出の工夫とこれを活かした地域づくりのあり方について、広域的・一体的に検討する。
- 2027年度から中期目標最終年の2030年度までの上記を題材としたモデルプラン検討やその適用支援などの進め方について協議・調整を実施する。

3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(1) 本部会の取組概要

■ 専門部会委員・民間オブザーバー名簿

※行政オブザーバー省略

委員	浅枝 隆	埼玉大学 名誉教授	部会長
	大沼 あゆみ	慶應義塾大学経済学部 教授	
	呉地 正行	日本雁を保護する会 会長	
	小林 幸男	社会福祉法人 野田市社会福祉協議会 会長	
	知花 武佳	政策研究大学院大学 教授	
	堂本 泰章	(公財)埼玉県生態系保護協会 専務理事	副部会長
	中村 圭吾	国立研究開発法人土木研究所 流域水環境研究グループ グループ長	
民間 オブザーバー	中村 俊彦	東京大学大学院 農学特定支援員	
	石川 元彦	(一社)日本旅行業協会 関東支部 事務局長	
	金井 司	三井住友信託銀行 フェロー役員	
	木下 順次	イオン株式会社 環境・社会貢献部 担当	
	佐々木 夢	株式会社千葉日報社 東京支社 営業部 主任	
	増田 徹	三井住友建設株式会社 土木本部土木工事管理部 土木サステナビリティ推進グループ 次長	
	山崎 敏彦	株式会社全農ビジネスサポート 広告企画部 嘱託	
	山田 健	サントリーホールディングス株式会社 サステナビリティ推進部 シニアアドバイザー	

C-⑩	産官学民セクター間の交流・連携・協働の促進
<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリ・トキの解説・啓発を兼ねた交流拠点施設の開設、湿地の保全・再生活動、環境学習等を通じて、産官学民が連携して取り組むことで、地域内の環境学習の場づくりをはじめ、関東地域外のエコネット事業地等との交流学习等の機会の増大を図り、各連携主体にとってもWin-Winの事例創出を検討・実施する。 	

■ 中期目標実現(2030年)に向けたプログラム

現状把握・ 効果検証	①各エリア等の地域振興・経済活性化に効果的な情報収集・整理・共有
	②エコネットの事業展開に基づく経済波及効果の試算と検証
	③エコネットの形成がもたらす多面的効果(生物多様性、防災・減災、癒し効果等)の検証・整理
	④エコネット事業への多様な参画主体の意識動向の把握
多様な主体 が参加する 仕組みづくり	⑤コウノトリやトキ等とくらす地域学習プログラムの実施【重点プログラム】
	⑥様々な立場の人(高齢者・障がい者等)の参加を可能とする体験の場や機会の検討
	⑦エコネットの効果的な推進に向けた関連情報の収集・蓄積・発信
	⑧多様な主体が参加可能となる活動メニューの検討・実施・支援
コウノトリ・トキ等をシンボルとした地域振興・経済活性化事業の推進支援	⑨コウノトリ・トキ等の情報発信や観察拠点の開設・運営と集客アクセスの改善
	⑩コウノトリ・トキ等をシンボルとした野生動物観光の検討・実施・支援
	⑪環境価値を重視したブランド農産物・商品の開発・生産・販売促進と地域還元方策の検討・実施【重点プログラム】
	⑫各主体の役割に応じた取組みを安定的に支える活動資金の確保
プロジェクトの継続・発展に向けた仕掛けづくり	⑬エコネットを推進する人材育成(環境教育、地域づくり等)の支援
	⑭条例制定等による観察マナー・ルールの普及啓発と見守り隊の結成・活動促進
	⑮多様な主体の参加継続のための支援策(表彰・助成等)の検討・実施
	⑯産官学民セクター間の交流・連携・協働の促進【重点プログラム】
⑰広域連携ネットワークの推進	

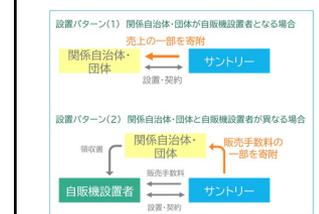
■ 2025年までに集中的・重点的に推進する『重点プログラム』

C-⑤	コウノトリやトキ等とくらす地域学習プログラムの実施
<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリやトキとくらす地域づくりは、学校教育や社会教育の格好の学習題材であるほか、「幸せを運ぶ鳥・コウノトリ」が飛来することへの地域内外の人々の関心の高まりを活かして、地域特有の生きものや自然環境のみならず流域治水、歴史・文化、エコネット等のテーマを包括した学習プログラムを流域に応じて作成し、活用を図る。 ・プログラムでは、コウノトリ・トキがどんな場所で餌を食べ、河川や水田ではどのような水辺環境が望ましいのかなどを学習すること、また、飛来地での観察マナー・ルールの普及・啓発も兼ねた市民ボランティアによる見守り隊を結成すること、これらを組み入れたネットワーク型の地域学習プログラムの構築を、SDGsの達成目標との整合も視野に入れて検討・作成する。 	

C-⑪	環境価値を重視したブランド農産物・商品の開発・生産・販売促進と地域還元方策の検討・実施
<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリやトキが安定的に生息する地域は餌となる動物も豊かである証しとなり、そうした環境で生産される食料は安全・安心な商品と言える。そのため環境を重視したブランド農作物や商品の開発・生産と販売促進の効果的な進め方を検討する。 ・ラムサール条約への湿地登録等による地域に見合ったブランド力の価値向上を図るための方策を検討するとともに、併せて活動の継続に必要な資金として利益の一部が還元可能となる仕組みづくりを進める。 	

3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(1) 本部会の取組概要

		重点プログラム C-⑤・C-⑯	重点プログラム C-⑪・C-⑯	これまでの専門部会・会議での意見・追加意見の検討			第14回 コウノトリ地域振興・ 経済活性化 専門部会
		交流学习の試行検証 (2組)	地域還元の取組 に関する 情報収集と共有	イオン“幸せの黄 色いレシートキャン ペーン”による 活動支援	イオン店舗での イベント開催	サントリー寄附付き 自動販売機	
実施日時	1組目	顔合わせ 令和7年10月28日 交流学习 令和7年11月26日	—	—	令和8年 1月23日～25日	—	令和7年 12月24日(火) 午後1時～3時
	2組目	交流学习 令和8年1月20日					
実施方法		オンライン開催	専門部会にて 情報共有	専門部会にて 情報共有	イオンタウンふじみ野 にて試行開催	専門部会・推進協議会 にて希望者を募集	対面+オンライン 開催
内容		◆顔合わせ 児童による学校紹 介・自己紹介 ◆交流学习 児童による学習発表、 講師による感想	売上げの一部を 環境や環境教育 に関する事業・活 動に寄附する地 域還元の取組に ついて情報共有	キャンペーンの 概要・申請につ いて情報共有	たね地づくり部会によ る「おしえてコウノトリ 展」をベースとした企 画展の開催	“関東エコ・ネット支援 自動販売機”の検討の 開始、寄附受入れ先及 び自販機設置者の募集	中間評価、重点プ ログラムと2026年度 以降の取組み、部 会再編等について
メンバー		小学校5校 講師 調整者(自治体、NPO) その他(報道関係者)	—	木下委員(イオン)	木下委員(イオン) イオンタウンふじみ野 鴻巣市 荒川流域エコネット	山田委員(サントリー ホールディングス) サントリービバレッジ ソリューション	専門部会委員 民間オブザーバー 行政オブザーバー
開催状況							

3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告

■これまでの専門部会・会議での意見・追加意見からの検討調整 ① イオン“幸せの黄色いレシートキャンペーン”による活動支援

概要 毎月11日の「イオン・デー」に実施されている「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、お客さまがレジ精算時に受け取った黄色いレシートを地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けのBOXに投函することで、レシート合計の1%分の品物をイオンが各団体に寄贈する取組。

- 応募の際の注意点**
- ・応募は店舗周辺で活動している民間団体のみ
 - ※本部が別地域でも可
 - ※自治体は対象外
 - ※関東エコ・ネットとのダブルネームも可
 - ・募集予定数に達している場合も交渉すれば追加の可能性あり



出典:イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

■これまでの専門部会・会議での意見・追加意見からの検討調整 ② イオン店舗でのイベント開催

検討概要

目的	シンボル種であるコウノトリ・トキや関東エコ・ネットの取組の認識・理解の促進
取組内容・進めかた	幅広い年齢層や価値観を持つ多くの人々が日常的に利用するイオン店舗のイベントスペースでのイベント開催 <今年度> 事務局による新たな取組のモデル的試行として、たね地づくり部会で実施している「おしえてコウノトリ展」を基礎とした周知PR展示を開催 <ul style="list-style-type: none">・開催場所・ご協力:イオンタウンふじみ野(埼玉県)・開催期間:R8年1月23日(金)~25日(日)・実施主体:関東エコ・ネット事務局、鴻巣市、荒川流域エコネット地域づくり推進協議会・実施内容:パネル展示、冊子配布など <2026年度> 別店舗にて規模を拡大して開催
今後の展開	関係自治体・団体とイオン店舗をつなぐ下地づくりを行うことで、取組の拡大に繋げ、関連商品の周知及び販売促進、関係自治体や関連施設への来訪促進への展開を目指す



3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告

■これまでの専門部会・会議での意見・追加意見からの検討調整 ③

サントリー寄附付き自動販売機

検討概要

目的	関係自治体・団体への活動資金の調達、周知PR、支援者の裾野の拡大、関連商品の販売支援
協働者・協賛社	サントリーホールディングス株式会社 山田オブザーバー サントリービバレッジソリューション株式会社 ご担当者
取組内容・進めかた	“関東エコ・ネット支援自動販売機”として、売上の一部が関係自治体・団体の活動資金として寄附される、共通デザインの自動販売機の設置を進める <今年度> R8年2月中旬まで寄附受入れ先となる自治体・団体、自動販売機の設置者／場所の希望を募る <2026年度> 年度内の設置・稼働を目指し、デザインなどの基本となる仕組みや設計をサントリーと事務局で検討する
今後の展開	・事務局は中間支援者として、自動販売機の設置希望者と寄附受入れを希望する関係自治体・団体、サントリーとのマッチングをすすめる ・自動販売機の設置者は民間を含めて広く継続募集し、寄附受入れ希望者は、エリア協議会や関東自治体フォーラムへの拡大も視野に入れる ・飲み物と併せて、環境配慮型の農産物やコウノトリグッズなどを販売も検討する



出典: 日本骨髄バンク 支援活動の紹介
サントリービバレッジソリューション株式会社

設置パターン(1) 関係自治体・団体が自販機設置者となる場合



設置パターン(2) 関係自治体・団体と自販機設置者が異なる場合



3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告

■ 専門部会での意見

第14回 コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会	
重点プログラムの取組みについて	<ul style="list-style-type: none">・単純に有機農産物としてだけでなく、シンボル種と関連付けたブランディングを行ってはどうか。
中間評価について	<ul style="list-style-type: none">・エコネットへの参加自治体数を増やしていくことを目標として掲げるべき。なぜ今までできていないのかも検証すべき。自治体自身が消極的ならば、子どもを対象とした取組によるボトムアップや、マスメディアの利用も策だろう。・コウノトリ以外の種を指標として増減に注目するのも良いのではないか。
2026年度以降の取組みについて	<p>【各主体への支援について】</p> <ul style="list-style-type: none">・自治体においては関東エコ・ネットへの参加不参加で地域活性の取組に差が出ているのではないか。支援体制の強化を期待したい。 <p>【企業との連携について】</p> <ul style="list-style-type: none">・地方銀行の関連企業でもある地域商社では、目指す方向性や商品販売など、関東エコ・ネットに親和性の高い様々な取組を実施しており、関東エコ・ネットにも高い関心を持たれているようであったので、アプローチ方法を整理して、次年度以降に連携を再度検討してはどうか。・ポストSDGsとして、日本からSWGs(Sustainable Well-Being Goals)を発信しようと経済界で盛り上がっている。大阪万博・日本経済新聞のシンポジウムでSWGsイニシアチブが設立され、20社が参画してSWGs宣言を10月に公表した。宣言には、多くの人が体感できるためのシンボリックな活動が必要とされ、コアな考えとして「流域」の発想が取り入れられた。シンボリックアクション委員会も設立され、経済界が具体的な活動を求めている。経済界で流域のキーワードが出てきたのはこれまでになく、関東エコ・ネットにとっても大きなチャンスだ。経済の中心である首都圏と最も近距離にある関東エコ・ネットであればイニシアチブが取りやすく、経済界にとっても良い機会となるだろうから、すぐに行動へ移すべきだと思う。 <p>【地域との共存について】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域と野鳥が良い関係性を築いている先進事例はいくつもあるので、参考として関東でも取り入れてはどうか。・観光において、コウノトリに関心を持ってもらうシンボルとなる背景には、観光以外の様々な取組が関係し、支えとなっているので、交流学习や環境学習などシビックプライドを子ども時代から育てることは重要。草の根からの全体的な取組の推進が大事であり、それらがカタチになれば、日本人、外国人両方を対象とした十分な観光コンテンツとしてなり得るだろう。

3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(2) 2025年度の検討・取組実施に関する報告

■ 専門部会での意見

2026年度以降の
取組みについて

【地域ごとの自然環境・社会環境を踏まえた取組について】

- ・「地域特性に基づく指標種が未設定」や「関係者を増やす」などを改善するために、場の特性や個性に着目し議論する必要がある。**元々の地形や風土**(人の営み)を明らかにし、コウノトリ・トキをはじめ**生息・生育可能な種のポテンシャル**を含めて、複数のセットをつくれると、コウノトリ・トキ以外の保全活動家や地域独特の風土研究家などに関東エコ・ネットが浸透していくのではないかと。そのためには、現在の委員以外で**「このような良い場所がある」と言える人**が必要だ。関連して、「この種がいるから守ろう」ではなく、**場の特性・個性から「ここはこういう種が飛来するポテンシャルがあるから環境を創ろう」という議論**ができると良い。利根川の右岸側だからこそその場の特性・個性に応じて、こうした調節池が必要という議論を求めたい。
- ・今のうちに**トキに留意したインフラ整備**を進めてはどうか。房総半島の機運醸成に繋がるのではないかと。水資源機構が環境保全に留まらず環境創造も推進するとして、10月1日に新しい環境方針、環境行動計画を公表した。東金ダムの貯水池であるときがね湖はフィールドの候補となり得るのではないかと。
- ・コウノトリ以外の地域に合った種をシンボルにして、人を呼び込んでみてはどうか。

【機運醸成について】

- ・身近に感じてもらうきっかけとして、コウノトリの昔の写真などを探してみたり、「あなたのまわりにトキやコウノトリにまつわる地名はありますか？」と問いかけてみてはどうか。
- ・**実際に見ることは機運を醸成する**。自治体への飛来を濃淡で見える化し公開することで、来訪者の期待感が高まるほか、地元企業の盛り上がりから寄附増加、流域での湿地再生や河川でのワンド創出への協力等にも繋がるのではないかと。初心者でも気付ける仕組みとして、コウノトリの簡単な見分け方を普及するのも良い。
- ・地域外の人に魅力を感じてもらうには、まずは**地域住民を対象としてシビックプライドを育てることが大事**。人づくり、場づくり、現地を見て感じるツアー、QRコードを活用した広報など、地域の人々が「ここはすごい所だ」と思える心をつくる取組に注力すると良いのではないかと。エコネットの取組は一部の人にしか伝わっていないから、**広く知ってもらう仕組み**も良い。
- ・**トキやコウノトリのフレーズを使用した支援を募る**機会の創出や、**飛来・歴史情報を活用した機運醸成**に取り組んでどうか。

3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(3) 次年度の検討課題

【重点プログラムC-⑤、⑬】 地域学習プログラム、産官学民の連携

「交流学习のチラシや調整の手引き」を使用した、 交流学习の拡充

- ・ 継続した運営支援体制の強化

- 交流学习の運営支援
- チラシと手引きの活用に係る検討

エコネットをテーマとした「地域学習プログラム」学習の 推進

- ・ 地域学習プログラムの普及
- ・ ツールの拡充

- 体系化した地域学習プログラムの冊子化
- 2024年度作成のパネルを使用した、地域学習プログラムの試行
- 冊子の活用方法を検討
- 野生生物との共生についての普及啓発の検討

【重点プログラムC-⑪、⑬】 関連商品、産官学民の連携 これまでの専門部会・会議での 意見・追加意見の検討

地域還元方策の検討

- ・ 資金獲得を目的とした中間支援の仕組みの構築
- ・ 関係自治体・団体と企業をつなぐ中間支援としての取組の必要性
- ・ 委員、民間オブザーバーとの連携強化

- “関東エコ・ネット支援自動販売機”の仕組みや設計の検討・試行
- 自動販売機設置者の継続募集の方法の検討
- これまでの会議等でいただいたご意見・ご提案に基づく取組の検討継続

課題

実施内容(案)

3. コウノトリ地域振興・経済活性化専門部会(人・地域づくり部会)

(3) 次年度の検討課題

これまでの専門部会・会議での意見・追加意見の検討

関連商品の販売促進の検討など

- ・ 対象にあわせた、より効果的な普及啓発・情報発信の推進
- ・ 関東各エリアの地域特性に基づく指標種の出組の支援強化
- ・ 環境省による連携団体への「トキとの共生を目指す里地」の選定と連動した出組の必要性
- ・ お米等の販売や、連携イベントの機会創出に係る中間支援の出組の必要性
- ・ 官民連携による情報発信や、マーケットリサーチなど中間支援の仕組みの構築
- ・ 委員や民間オブザーバーとの連携強化、広域連携ネットワークの推進

- 自然環境や生物への関心の低い層も対象とした周知PR、関連商品の販売促進、関係自治体・施設への来訪促進を目的とした、民間オブザーバーと連携したイベントの開催
- 関東各エリアの地域特性に基づく指標種に係る出組を進める関係自治体・団体、エリア協議会との連携の検討
- トキに係る出組を実施している他団体との連携の検討

課題

実施内容(案)